

1. 教育の責任

私は子ども学科の教員として、子ども家庭福祉を主たる専門領域としながら、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に係る福祉、実習、教職等に関する科目を担当している。2019～2020年度の担当科目は以下に示す表1のとおりである。

表1 . 2019～2020年度の担当科目

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
基礎演習	2019	通年	1年生	講義	71名	4クラス 教員4名
キャリアアップ セミナー	2019	通年	1年生	講義	71名	4クラス 教員4名
クラス運営と教 材研究	2019	前期	2年生	演習	71名	1クラス 教員2名
総合演習	2020	通年	2年生	講義	68名	4クラス 教員4名
キャリアアップ セミナー	2020	通年	2年生	講義	68名	4クラス 教員4名
社会福祉	2019 2020	前期	2年生	講義	72名 69名	1クラス
実習指導	2019 2020	前期	1年生	演習	68名 73名	4クラス 教員4名
実習指導	2019 2020	前期	2年生	演習	71名 68名	4クラス 教員5名
保育・教職実践 演習（幼稚園）	2019 2020	後期	2年生	演習	71名 68名	1クラス 教員2名
子ども家庭福祉	2019 2020	後期	1年生	講義	68名 73名	1クラス
教育方法・技術 論	2019 2020	後期	1年生	講義	68名 73名	1クラス 教員2名

実習指導	2019 2020	後期	1年生	演習	68名 73名	4クラス 教員5名
保育実習	2019 2020	集中	2年生	実習	53名 47名	*選択科目

また、上述の担当科目に関連して、次のような体験的な学習の企画・運営を行っている。

(実習指導 ・ ・ ・、基礎演習、キャリアアップセミナー)

・「保育体験 」

幼稚園・保育園でのふれあい体験 (1年生 73名)

・「保育体験 」

幼稚園・保育園での園見学 (1年生 73名)

・「保育体験 」

大学近隣の地域や施設での行事のボランティア体験 (1年生 73名)

(基礎演習、キャリアアップセミナー)

・「動物飼育体験学習」

埼玉県こども動物自然公園での動物飼育体験 (1年生 40名程度)

(実習指導 ・ ・ ・、基礎演習・総合演習、キャリアアップセミナー ・

・「実習報告会」

1・2年生合同の実習報告会(全体会・分科会) (1・2年生 141名)

(クラス運営と教材研究)

・「やまたん運動会」

主要な園行事の一つである運動会を模した運動会 (1・2年生 141名)

ただし、2020年度については、新型コロナウイルス感染症対策のため、「保育体験」及び「動物飼育体験学習」の実施は見送られた。また、平成31年からの新カリキュラムで「クラス運営と教材研究 ・ 」は廃止科目となったため、「やまたん」運動会の開催も終了した。

2. 教育の理念

私の教育の理念は、幼稚園教諭・保育士養成に携わって四半世紀を過ぎた今で

も大学院を終えて教員を始めた頃と変わってはいない。簡明に言えば「自立と貢献」という言葉でそれは表すことができる。遙か半世紀前に自分自身が受けた教育の影響でもあると思われるが、今でもけっして色あせることはない。

今日の保育の学びでは、幼稚園教諭・保育士としての専門的な知識や技術の習得はもちろんのこと、なにより自分自身が一人の人間として、大人として自立していることと、子どもやその保護者だけでなくすべての他者に対してその存在を尊重し、共感し、受容し、そして貢献・奉仕ができるようになること、そうした人間的成長もまた大切であるとされる。

そして、一人の人間として「自立」ということは、けっして一人で生きていくなどということではない。むしろ多くの他者との関わりの中で、素直な心と感謝の気持ちを忘れず、主体的に多様な人々と協働することができることを意味している。

また、「貢献」も単に社会や誰かのためになる何かをただ漠然とやるというのではなくて、むしろ辞書的な意味の通り、「物事や社会に力を尽くして、よい結果をもたらす」ことであり、いわば「貢献」は目の前にある事物に力を尽くすことから始まるのである。

「自立と貢献」そして「人間的成長」。いったいどうすれば学生がそれを実現できるのか。教員の立場から、褒めることで意欲を引き出したり、失敗を防ぐ手立てを考えたり、模範を示したり、ヒントを用意したりといろいろ模索するものの、最後はやはり学生の自ら成長する力を信じることに行き着く。彼らを信じ、学生一人ひとり異なる多種多様な歩みに対して、それを尊重、受容し、援助は最小限に傍らで支援していきたい、過剰な援助にならないよう十分に注意しながら。

3. 教育の方法

担当する科目の授業形態が講義もあれば、演習、実習もあり、さらに一人で担当するだけでなく、2人で担当、4人5人で共同して担当する科目もあって、その教育の方法は当然一様ではない。ここでは、教員一人での講義科目「社会福祉」、教員2人で担当する演習科目「保育・教職実践演習（幼稚園）」、教員4名（4クラス）で担当する「実習指導」を特に取り上げ、シラバス上にある教育の方法の関連項目を以下に示す。

1) 社会福祉

配当年次：2年次 開講時期：前期 単位数：2 授業形態：講義

免許・資格との関係：保育士資格必修

授業のねらいと到達目標	【ねらい】 社会福祉と現実の子ども家庭支援や保育がどう繋がっているのかを知るとともに、現代の社会福祉の考え方や体系を理解し、その法律や制度、専門的方法・技術など、子ども家庭支援や保育の現場にいかせる知識の獲得をめざす。
	【到達目標】 保育者に必要な社会福祉の理念や概念、歴史、制度と法律、相談援助の理論や方法・技術、及び社会福祉における子ども家庭支援の方策について理解し、適用することができる。
授業の方法等	パワーポイントのスライドとプリントを使い講義形式で進めます。

2) 保育・教職実践演習（幼稚園）

配当年次：2年次 開講時期：後期 単位数：2 授業形態：演習

免許・資格との関係：保育士資格必修 幼稚園教諭免許必修

授業のねらいと到達目標	【ねらい】 幼稚園教諭・保育士として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を確認する。
	【到達目標】 学生が、教員・保育者となる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を各自で図る。
授業の方法等	講義、演習、ディスカッション、フィールドワーク、ロールプレイ、グループワークと多様な形式で進めます。また、ITCを活用した授業として、幼稚園・保育所・つどいの広場等での保育実践（フィールドワーク）などでは、その実践の様子をスマートフォン等でビデオ撮影し、その様子をプロジェクターに提示して改善点や工夫点等を議論するとともに、レポート提出はウェブアンケートシステムを利用するなど、双方向型授業を意図したものとします。

3) 実習指導

配当年次：1年次 開講時期：前期 単位数：2 授業形態：演習

免許・資格との関係：保育士資格選択必修 幼稚園教諭2種免許状必修

<p>授業のねらいと到達目標</p>	<p>【ねらい】 主として教育実習・を円滑に行うため、「記録」を中心にして必要十分な実習に関する知識・態度、技術・能力を習得する。 特に事前指導では、実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、取得すべき知識や技能等について知り、実習の意義を理解する。</p> <p>【到達目標】 保育者であることを自覚し、基本的な実習態度を習得している。保育場面の適切な観察を行うことができる。観察をもとに振り返り・評価までの必要十分な実習日誌を作成できる。幼児の発達等をふまえて保育実践にも参与できる。</p>
<p>授業の方法等</p>	<p>全体講義、グループ別の演習、ディスカッション、実技等多様な形式で進めます。</p>

4. 教育の成果、評価

本学では毎年前期末と後期末に学生に対して授業アンケートを実施しており、ここでは2019年度の前期と後期の授業アンケートの結果の一例として、「社会福祉」、「保育・教職実践演習（幼稚園）」、「実習指導」の結果を示す。このアンケートでは、問1：学生自身の取り組み、問2：授業の内容、問3：授業方法、問4：総合評価で、それぞれ5点満点でその評価を問うたものとなっている。

1) 社会福祉（単独の講義科目）

授業の内容と展開は、おおむね厚生労働省の保育士養成課程の教授内容に沿って、学生はスクリーンに映したパワーポイントを使った授業のスライドから、要点だけを授業プリントに書き写す、ノート書きをあまり必要としないフルプリント方式とした。なお、シラバスには毎回の授業の予習、復習事項を付記した。

問1「学生自身の授業への取り組み」では、1「欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか」が4.11.ポイントで最も高く、2「私語を謹んで授業を受けましたか」は4.00、3「授業の要点をノートにとっていましたか」も4.08、全般的に問1の学生の取り組み項目は昨年とほぼ同様の数値となった。

問2「授業内容」では、すべての項目が4ポイントに届かず、3.83～3.95の狭

いレンジにあったものの、3「授業の進度（速さ）は適切だったか」は3.83と昨年並みであったが、他の項目は昨年に比べ0.1ポイント以上高い結果であった。

問3「授業の進め方」では、すべての項目が3.90～4.00の間であったが、昨年最も低かった2「説明の仕方はわかりやすいか」は4.00となり0.3ポイント上昇した。ただ、3「授業中の板書や機器の利用は適切か」は昨年に比べ若干上昇したものの3.90とこの問いでは最も低くなった。

問4「総合的評価」は3.95と昨年と比べて0.17ポイント上昇した。問2「授業内容」問3「授業の進め方」とも昨年よりは若干高くなり、全般的に幾分改善された結果となった。

自由記述では、「保育者として大人として知っておいた方が良いことを学べた。」「とても勉強になりました」というコメントがある一方、「スライドの画面が見づらい」との指摘が今年も残念ながら散見され、スライドについてはさらに改善を重ねる必要を感じた。また、プリントについても「穴埋めの【 】が小さい。」との指摘があり、この点も改善するよう留意したい。

表2. 「社会福祉」授業アンケート結果

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平均
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.11
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.00
3, 授業の要点をノート等にとっていましたか。	4.08
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	3.90
5, 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	3.73
問2 授業内容について	平均
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	3.95
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。	3.90
3, 授業の進度(速さ)は適切でしたか。	3.83
4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	3.92
問3 授業の進め方について	平均
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.00
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.00
3, 授業中の板書は分かりやすいものでしたか。	3.90
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	3.94
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	3.97
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	3.98
問4 全体的評価	平均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	3.95

2)「保育・教職実践演習(幼稚園)」(教員2名で1クラスの共担の演習科目)

本年度も、グループによる幼稚園、保育所、つどいの広場での保育実践と壁面製作を中心に行い、保育実践については必ずビデオ撮影を行い、ほぼ翌週に上映の機会を設けて振り返りを行った。昨年は時間が不足し全グループの上映ができず不評であったため、本年度は計画的にすべて上映した。

授業に関する全体的評価は4.16ポイントと前年よりわずかに上昇したにとどまった。しかし、自由記述では昨年の記述が多かった「グループワーク」や「グループでの学び」への不満に言及するものはなくなり、グループワークの課業管理については留意した結果がでたとも言える。

表3.「保育・教職実践演習(幼稚園)」授業アンケート結果

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平均
1,欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.33
2,私語を慎んで授業を受けましたか。	4.16
3,授業の要点をノート等にとっていましたか。	4.02
4,シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.15
5,予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.15
問2 授業内容について	平均
1,授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	4.16
2,授業内容のレベルは適切でしたか。	4.22
3,授業の進度(速さ)は適切でしたか。	4.22
4,この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.27
問3 授業の進め方について	平均
1,教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.29
2,授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.25
3,授業中の板書や機器の利用は適切でしたか。	4.29
4,教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.33
5,教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.33
6,学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.31
問4 全体的評価	平均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.16

3)「実習指導」(教員4名4クラスの共担の演習科目)

実習指導に関しては前年に引き続きクラスアドバイザーによる指導時間を前年より増やすことで、指導案の書き方の添削指導だけでなく、実習全般の留意事項もアドバイザーからも指導できるよう、目標とする少人数指導の徹底を進めた。

授業に関する全体的評価は前年より0.3ポイントほど上昇して4.46であった。

また、実習に向けて数多くの準備（宿題・課題提出）を実際に行っているにも関わらず前年まではいまひとつ低い数字だった「予習・復習、努力して授業に臨んだか」も 4.39 と大きく昨年を上回った。

なお、自由記述ではネガティブな記述ではないものの、「実習日誌の書き方を細かく指導していただけてよかったが、たくさん書く前に書き方の講座をしてほしい。」という指摘は傾聴に値する。こうした学生の無用な努力感を避けるため、指導の流れをもう一度見直し、学生の理解に無理のない指導スケジュールを検討したい。

表 4 .「実習指導」授業アンケート結果

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平均
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.75
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.42
3, 授業の要点をノート等にとっていましたか。	4.23
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.17
5, 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.39
問2 授業内容について	平均
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	4.35
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。	4.39
3, 授業の進度(速さ)は適切でしたか。	4.38
4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.55
問3 授業の進め方について	平均
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.59
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.52
3, 授業中の板書は分かりやすいものでしたか。	4.52
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.56
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.53
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.55
問4 全体的評価	平均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.46

5 . 教育の改善に向けた今後の目標

1) 社会福祉

短期的目標	学生が学びやすい授業規律の確立(授業環境の整備)
-------	--------------------------

	<p>ごく一部の学生であっても、授業中の私語や、携帯電話の使用(HP閲覧、メールやゲームなど)などは、他の学生の学習意欲や効果を大いに低下させるため、そうした行為を根絶し、学びに関する一定の規律が保たれた教室、授業をめざしたい。</p> <p>学生が学びやすい授業内容</p> <p>本科目の場合、厚労省より「教授科目の内容」として教授内容を細かく指示されているため自由度は低い。その中で、教授する内容を学生の想像力の範囲を想定しなら精選するとともに、福祉(サービス)のリアリティを新聞記事や映画を使ったフィクション・ノンフィクションの事例を活用することで学生に感じてもらい、関心・意欲を高めたい。</p> <p>学生が学びやすい視覚教材の開発</p> <p>往々にして学生から指摘されるパワーポイントのスライドの見づらさを、シンプルな配色、レイアウトのスライドに変更することで問題の解消を図りたい。</p>
<p>長期的目標</p>	<p>本科目は保育士養成課程における福祉に関する教科目の一つであり、そもそも保育士は福祉職であることから、授業を通した「福祉マインドの薫陶」こそ、最大にして長期的な目標といえる。</p> <p>ある意味熱量のある授業によって、特に、「ノーマライゼーション」、「インクルーシブ」といった現代の福祉のコアとなる概念を学生一人ひとりが理解して、それを保育の営みの中で体現できるかたちで、身につけていけるよう希望している。</p>

6. エビデンス一覧

- (1) シラバス(社会福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、実習指導)
- (2) 授業時配布プリント(社会福祉、実習指導)
- (3) 授業使用パワーポイント・プリントアウト(社会福祉)
- (4) 試験問題(社会福祉筆記試験、実習指導 レポート試験)
- (5) 成績集計結果(社会福祉)
- (6) 授業アンケート結果(社会福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、実習指導)

(7) 体験的学習の実施要領 (保育体験 (. .) 、動物飼育体験学習、やま
たん運動会、実習報告会) *2019 年

(2020/8/27 追記)